

## 解剖実習向け・国産献体用納体袋の開発

### ■支援の概要

医学生解剖実習向けにご献体を納めるための納体袋を開発・事業化しました。

### ■背景と製品の概要

医師を養成する大学では、全ての医学生が2学年時に解剖実習を受講します。解剖実習では、生前に、医学教育に役立てたいとの崇高な遺志のもとで、死後に自身の遺体を無条件・無償で提供された「ご献体」で実習が行われています。解剖実習では、あらかじめホルマリン等によって腐敗防止処理を施したご献体に対して、概ね6週間程度の期間にわたって行われます。

実習においては、納体袋に入れたまま解剖をしますが、従来の納体袋は中央にファスナーがあることで、学生にご献体にアクセスしにくい課題がありました。国内で流通している納体袋はコストの観点で中国からの輸入品がほとんどあったため、細かな要望が反映できない状況にあり、満足いく品質のものではありませんでした。更に、コロナ禍によるロックダウンによって、納体袋（遗体収納袋）がひっ迫しました。これを受けて、改めて国産納体袋を開発しました。

### ■支援の項目

- ①製品企画
- ②連携する企業とのマッチング
- ③開発進捗管理
- ④有効性・強度・性能評価支援

高い防水性能、軽量かつ低コスト、燃やしても有毒ガスを出さない素材

熱溶着部分を最小限にすることで製作コストを最小限

3辺ファスナーで開くことにご献体のアクセスがしやすい

ご献体を納めたまま茶毘にしても燃え尽きる樹脂製防水ファスナー

内面防水コーティングされておりホルマリン、体液の漏出を防ぐ



※令和6年1月事業化

### ■支援の成果

- 解剖実習時に、ご献体へのアクセス性を高めるための開口デザインにしながらも、製作時の工数を最小限にすることに成功しました。
- 漏水の原因になる縫製部分を最小限にすることで、超音波マシン等の特殊加工装置がない工場でも製造可能としました。
- 海外製は金属製でかつ漏水の懸念がありましたが、樹脂製防水ファスナーを採用することで、漏水を抑制しながら茶毘時に残渣が残らない製品としました。
- 医科大学における解剖実習用納体袋として正式採用されました。